

平成20年度第2回習志野市補助金審査委員会 会議要旨

日 時 平成20年7月22日(火) 16:00~17:00

場 所 習志野市企業局3階会議室

出席者 (委員)服部委員(委員長)、小泉委員(副委員長)、小柳委員、関根委員

計4名 欠席者:鎌田委員

<委員長・副委員長以下五十音順>

(市側(事務局))荒木市長、橋本財政部長、吉川経営改革推進室長、

岡澤市民協働推進課長

<記録:高田・越川>

傍聴者 なし

【次 第】

- ・委嘱状交付
- ・委員長・副委員長選出
- ・市長あいさつ
- ・議事
- 1. 市民参加型補助金に係る審査概要について
- 2. その他

・委 嘱 状 交 付

〔荒木市長より、以下のとおり委嘱状を交付〕

委嘱状 習志野市補助金審査委員会委員を委嘱する。期間は平成20年7月22日から平成22年7月21日までとする。

平成20年7月22日 習志野市長 荒 木 勇

・委員長及び副委員長選出

〔委員の互選により、委員長に服部委員、副委員長に小泉委員を選出〕

開 会

. 市長あいさつ

市長 それでは、委員長のご了解をいただきましたので、平成20年度第2回補助金審査委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。

本日は、大変にお忙しい中、お暑い中をお集まりいただき、誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては、既存補助金の見直しに大変なご尽力をいただく中で、94件もの補助金をご審査いただき、20年度予算において、約3千500万円の実質的な補助金の削減を行うことができましたこと、並びに、この大きな課題でありました行政職員と団体との意識改革についてでございますけれども、相当その面においては各団体、そして私ども職員にとっても意識改革の良い機会であったと、このように私は認識しているところでございます。まだまだでございますけれども、これを機会に一層意識改革に努めていく必要があると認識しております。

補助金の見直しが一区切りつきましたので、本日は、いよいよ本年度よりスタートいたしました「市民参加型補助金」の審査につきまして、ご検討いただくはこびとなりました。

習志野市では、新しいまちづくりの方向性を検討する中で、この4月より、新たに「市民協働推進課」を設け、協働によるまちづくりを、より一層進めていくことに致しました。その中で、本補助金は、市民のみなさんから、直接、事業をご提案いただくものであり、習志野市における新たな協働のあり方として、私自身もその事業効果につきまして、大変期待を寄せておるところでございます。本制度につきましては、補助金審査委員の皆様いろいろなアイデア、ご意見、ご質問をいただきながら、よりよい制度に育ててまいりたいと考えております。現在、まだ正式な申請はないようございまして、私も若干心配をしているところでありますけれども、たくさんの申請があることを期待し、このことがまた、習志野のまちづくり、協働によるまちづくりが一層推進するきっかけになれば、と期待しております。

以上、簡単ではございますが、会議に先立ちましてのごあいさつに代えさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

議 事

議題 1 . 市民参加型補助金に係る審査概要について

〔資料に基づき、採択の基準や評価項目・配点等について事務局より説明〕

< 意見要旨 >

- ・評価の点数はいいが、重要なのは発表方法であると思う。採択された団体へは、素晴らしくて期待している点や、落ちた団体へはここはすごくよかったが、ここがちょっと足りなかったので、来年また来てくださいね、といった伝え方の配慮が一番大切である。委員長がとりまとめて伝えていただくのが、よろしいと思うが、そこが一番議論を生みそうだと思う。他の市町村も公表というのはそのときにやっているか。
公表はその場では行わない。
- ・検討事項の中で、「プレゼンテーション後の採択結果及び採点の公表について」とあるが、「採択結果」というのは最終的には市長がやることであり、最終的合否の方の採択結果というのは、市長が9月の初めに発表するものである。私たちの役割は審査ということであり、最終的に採択するのは市長であり、委員会として我々には権限はない。
習志野市市民参加型補助金交付要綱第7条第2項に基づき、選考は市長が行う。
- ・事務局が第一次審査として行う書類審査の審査基準というものはどうなっているのか。
団体要件と事業要件の二点だけのみを審査する。
- ・20分で審査を完了するのは短いような気がする。初めてのことであるので、多少余裕をもってやらないと、後からだと前後の団体の印象が自分の記憶の中で混乱する可能性がある。もう少し時間をとっていただいた方が、正確な審査ができると思う。
件数の状況を見ながら、スケジュールを検討したい。
- ・各団体によって使う時間は違うと思う。時間の中で、長くても20分なら20分の中で伸びてもいいなど、臨機応変に対応すればいいのではないか。
- ・公平の観点から、持ち時間との関連は質疑応答も含めて平等にすべきではないか。一応原則、例えば1団体30分を超えてはいけないといった基準を持っていないといけいない。
プレゼンについては皆さん同じ時間、平等な時間でやっていただき、その中でまとめられる力もひとつの要素であるため、プレゼンは時間どおりとする。件数にもよるが、余裕をもってできるように、スケジュール配分をさせていただきたい。
- ・採点したものは団体が終わる度に回収するのか。
事業毎に採点していただき、終わったらその都度回収させていただく。
- ・採点者には控えのようなものはいただけるのか。団体間の審査において、項目を採点する中で、自分なりの判断基準にする必要がある。今回申請された全ての団体の名前と評価項目が表にな

っているメモのようなものがあればよい。最後になってしまうと混乱してわからなくなってしまう。よかったところをちょっと書いておけるとよい。

- ・一覧表のようにしておいて、四角の中に印を付ければ一目瞭然でそれがわかるような書式があればやりやすい。
- ・先方に説明するときや公表したときに、理由が納得できるように、各委員が特記事項を記入しておくといいのではないか。

自由記述のようなものを作って記入し、後ほど全体を整理した中で、事業毎に委員の方々から記入したものをいただいて、担当課から、各団体に対して事業評価についてお伝えするという方法も検討したい。

- ・審査後、こういった会議の日があった方がよい。
- ・委員会として初めてやるものであるため、委員会の中で意見を述べ合って、最終的な審査を話し合う中で、事業の将来性等意見を言い合って、出てきた意見をまとめてはどうか。

事業への取り組みの関係から、補助金の可否を早く確認したいという団体が多い。点数によってある程度線を引き、その部分はそれで決定する部分とし、公表する段階で、委員会としての講評をつけて公表するということがよい。

この補助金自体が、落とすための補助金ではなく、育てていこうという補助金であり、団体へアドバイスしてあげることも必要である。いずれにしろそういった意見が集まるのは審査時間の中ではできないため、別に少々時間をとろうと考えている。ただし、点数は点数として、プレゼン時にきちんと決めさせていただく。その結果に対する意見評価については、皆さんで話し合っ、意見を出していただくことは必要である。当日のプレゼン後、少し時間を空けた後に、意見を集約する会議の時間を設けたいと思う。

- ・評価項目毎の評価する点による採点の付け方については、配点を分けて考えるのか、トータルで考えるのかなど、統一性をとるべきである。

< 検討結果 >

「審査員採点の中から最高点と最低点を除いた平均をもって得点とする」 了承

「評価項目の配点及び採択基準点の公開プレゼンテーション前の公表について」 了承

「プレゼンテーション後の審査結果と採点の公表について」

トータルの採点結果を公表する。個別の評価内容については、各委員の意見交換後、集約したものを後日委員会意見として公表する。

< その他 >

- ・当日のスケジュールについて：1日で実施の場合

9時30分集合・事前の説明、10時～ 審査開始、12時～ 昼食、13時～ 再開を予定

- ・本日の意見内容及び対応についてまとめ、早急に送付する。
- ・審査関係書類についても、団体からの追加資料提出後、速やかに送付する。